

# 株式会社商船三井・株式会社商船三井さんふらわあ

商船三井グループでは、企業理念である『青い海から人々の毎日を支え、豊かな未来をひらきます』に基づき、社会の発展に向けて海事分野を中心に様々な挑戦を続けている。その一環として、国内初のLNG(液化天然ガス)燃料フェリーをグループ会社の商船三井さんふらわあが運航する大阪～別府航路に就航させた。これにより環境負荷の大幅軽減を実現させた。また旧船からトラックの積載台数を大幅に増やすことでドライバー不足や2024年問題で加速するモーダルシフトの受け皿となっている。

※「株式会社商船三井さんふらわあ」は、令和5年10月1日法人合併により「株式会社フェリーさんふらわあ」から会社名変更

## 取組内容・効果

### ☑LNG燃料主機関採用による環境負荷低減

既存の重油燃料フェリーに比べてCO2排出量は20%以上削減、NOx(窒素酸化物)は排出量を大幅削減、SOx(硫黄酸化物)は排出量ほぼゼロへ。  
内航船省エネルギー格付け制度において最高評価の星5つを取得

### ☑LNGインフラへの貢献

LNGインフラの実績が少ない内航事業環境において日本初のLNG燃料フェリーとして、多くの関係者と共に様々な協議努力を重ね無事就航し、大分県別府港にて高い安全意識のもと、LNGバンカリング体制の確立を成功させた先進的取組を高く評価。

### ☑モーダルシフトへの貢献

トラック積載台数の増加、ドライバーズルームの拡充により、ドライバー不足や2024年問題で加速するモーダルシフトの受け皿となっている。  
本船の大型化、新型省エネ船型採用などによる燃費削減に加え、LNGへの燃料転換によって相乗的なCO2削減を達成している。

### ☑旅客の快適性向上と脱炭素の浸透

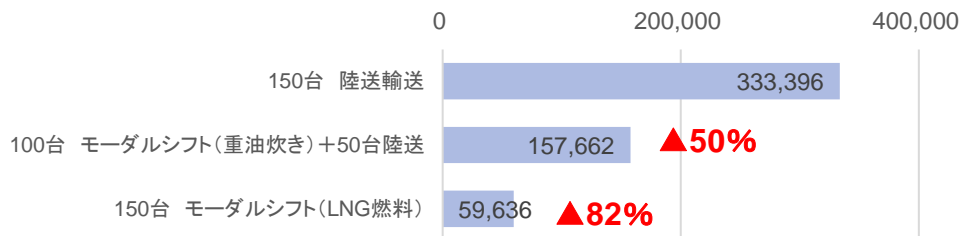
「きずな」をコンセプトにコネクティングルームを初めとした20種類以上の多彩な客室を設置。内装デザインにもこだわり、クルーズ船のような非日常性と快適性を手軽に体感できる。身近な乗り物のフェリーをLNG燃料化することで、低炭素化の関心を社会全体に一層浸透させる役割を果たすことができる。

## LNG燃料フェリーにトラックを150台積載した場合のCO<sub>2</sub>総排出量



59,636 kg

### 増トン(15トン積載)車 150台の CO2排出量 比較 単位:kg



CO<sub>2</sub>削減量 ▲274トン/便 ▲194,000トン/年

1便で一般家庭の年間CO<sub>2</sub>排出量「2019年度約4トン(3,971kg)」の69世帯分相当、1年間(700便)で49,000世帯分相当を削減

## LNGバンカリングのイメージ



船名	現行船 あいほり・こぼると	新造船 くれない・むらさき
総トン数(ト)	9,245	17,114
全長/幅(m)	153/25	199.9/28
燃料	C重油	LNG/A重油
内装面積(m <sup>2</sup> )	4,950	8,300
旅客定員(人)	710	716
個室割合 (個室定員/総定員)	40%	60%
トラック (台/13m換算)	92	137
乗用車(台)	97	100

